

# 1 章 事業実施内容報告

## 1.事業概要

### (1) 概要

地域資源を活かした当地ならではの観光プログラム策定を主たる目的として、地域資源の捉え方や活用方法を学ぶとともに、先進地の実地調査を行った。

また、村外から幅広く情報を集めるためアンケート調査（ギャップ調査）を実施し、地域の観光資源に関する情報収集を行うとともに、当村に対するイメージ調査を行った。以上の調査を行った上で、当地ならではの観光開発の方向性をとりまとめることで、平成 29 年度以降の実験事業運営に向けての議論を行い、その案を取りまとめた。

あわせて、観光プログラムのコンセプトと整合性を持ち、その魅力を一層高めるための地域産品の開発の方向性について議論を行った。

### (2) 調査研究の目的

観光振興の方向性について、参加委員（商工会員、行政職員、観光協会職員、農漁業者、一般住民を予定）間に共通認識を醸成し、今後の地域活性化に向けた具体的事業を円滑に推進することを目的として、下記事項を本年度の目標として事業を推進した。

1. 観光プログラム開発・情報発信方法に関する調査研究および実施計画の立案
2. 特産品開発・飲食メニュー開発に関する調査研究および実施計画の立案
3. 三島の連携による魅力創出に関する調査研究およびビジョンのとりまとめ
4. 効果的な情報発信体制の確立に向けた調査研究および実施計画の立案

### (3) 調査研究のテーマ・内容

本事業では、以下のテーマについて調査研究を行った。

#### ① テーマ

「年間を通じてお客様に楽しんでいただける観光地づくり」

現在、季節による入り込み客の変動が非常に大きく、閑散期となっている冬季においても、観光客に楽しんでいただけるプログラムの実現を本事業のテーマとした。

#### ② 内容

観光客および村内観光関連産業事業者の意識調査

村外住民を対象とするアンケート調査を行い、実態を把握し、認知度と興味度のギャップを分析することで、今後の事業所としての対応の方向性、課題について研究した。

#### ③ 先進地事例等の実地調査

当村と同規模の地区の中で、観光関連産業を基幹産業とし、成果をあげている先行事例の調査を行った。

#### ④ 委員会および作業部会の開催

上記の調査結果をもとに委員会を開催した。

#### ⑤ 特産品・飲食メニューの小規模な試作

特産品および飲食メニューそれぞれについて、2～3点の小規模な試作を行い、委員および専門家等による評価を行い、次年度以降の特産品開発事業に向けた情報収集機会とした。

#### ⑥ 季節に応じた観光プログラム開発計画立案

特に閑散期における観光プログラム開発の調査研究を行い、夏以外の季節（春・秋・冬）の観光資源を洗い出した「共同プレスリリースシート」及び「アクションプラン」原案を作成した。これにより、事前のプロモーション活動、事業者による準備・受け入れ体制の円滑化を期待する。

#### ⑦ 事業報告書のとりまとめ

事業内容について報告書を取りまとめた。

- ・観光客と村内事業者の意識調査およびギャップの分析
- ・特産品開発・飲食メニューの開発計画立案
- ・独自の魅力を持つ三島を回遊する観光プログラム立案
- ・パブリシティ、SNSの活用、プロモーションビデオ作成等による情報発信計画立案

### (4) ターゲットとする市場やユーザー

#### ① 若年層

現在の主要な顧客層。主として夏季を中心としている。よりロイヤリティーを高め、リピート意欲の向上を図る。

#### ② 中高年層

現在は閑散期となっている11月～5月期の主要顧客層として位置づける。

#### ③ ファミリー層

マリンレジャー、自然探索など、年間を通じて訪問している。絶対数としては少数だが、今後の成長が見込まれる顧客層と考える。

#### ④ 修学旅行・企業研修

那覇からのアクセスに優れている点を活用し、修学旅行、企業研修などを民泊と組み合わせ提供する方向性について検討する。主として閑散期を中心として誘客を図りたい。

## 2. 委員構成

### (1) 委員会委員

#### ◆推進委員会

区分	氏名	所属・役職
委員長	宮平安弘	座間味村商工会会長
副委員長	宮平幸進	座間味村商工会副会長
副委員長	垣花 薫	座間味村商工会副会長
委員	宮里 哲	座間味村長
委員	小池大二郎	環境省 慶良間自然保護官事務所 自然保護官
委員	又吉英夫	座間味ダイビング協会 会長
委員	大村真俊	あか・げるまダイビング協会 会長
委員	中村 毅	座間味村ホエールウォッチング協会 会長
委員	大城 晃	座間味村漁業協同組合 組合長
委員	宮平一明	座間味村商工会青年部 部長
委員	宮平智子	座間味村商工会女性部 部長
委員	宮城 斉	沖縄県商工会連合会 支援課長

#### ◆作業部会

区分	氏名	所属・役職
部会長	宮平安弘	座間味村商工会会長
副部会長	宮平幸進	座間味村商工会副会長
副委員長	垣花 薫	座間味村商工会副会長
委員	木舩征良	マリンリンク 代表者
委員	宮里祐司	(株)ケラマブルー 代表取締役
委員	宮平 賢	座間味区長
委員	宮平一明	パティオハウス リーフ 代表者
委員	高江州英夫	ざまみ食品 代表者
委員	前田正樹	Tratorria Bar 慶留間 gnon 代表者
委員	加藤朋成	島のアトリエK I R A R I 代表者
委員	比嘉のぞみ	座間味村商工会女性部 副部長
委員	大坪弘和	座間味村ホエールウォッチング協会 事務局長
委員	小池大二郎	環境省 慶良間自然保護官事務所 自然保護官
委員	三田勇樹	座間味村役場 産業振興課 主事
委員	渡邊美喜	座間味村観光協会 事務局
委員	糸嶺直也	座間味村漁業協同組合 総務課長
委員	高江州 勤	沖縄県商工会連合会 スーパーバイザー

(2) 専門家

氏名	所属・役職	専門分野
大谷芳弘	㈱マジックマイスター・コーポレーション 代表取締役	広報・販促コンサルタント
佐藤直也	㈱地域振興総合研究所	地域活性化及び観光開発

(3) 参画事業者

氏名	所属・役職	業種
加藤朋成	島のアトリエ KIRARI・代表者	小売業
前田正樹	Tratorria Bar 慶留間 gnon・代表者	飲食業
高江州英夫	ごまみ食品・代表者	製造業
和山通年	和山海雲・代表者	飲食業
大城 晃	座間味村漁業協同組合	飲食業

### 3. 委員会等開催実績

#### (1) 推進委員会

委員会等名	第1回推進委員会・作業部会（合同委員会）
開催日時	平成28年6月10日（金曜日） 16時00分～18時00分
開催場所	座間味村役場 3階 多目的室 （住所）沖縄県島尻郡座間味村字座間味109番地
出席者氏名（出席者数20名） （委員）宮平安弘、宮里哲、小池大二郎、垣花薫、又吉英夫、中村毅、大城晃、宮平一明、宮平智子、宮里祐司、宮平賢、高江州英夫、大坪弘和、三田勇樹、渡邊美喜、宮城斉、高江州勤  （専門家）佐藤直也 （事務局）荻堂盛臣、垣花みのり  （オブザーバー）	
会議等テーマ	委員への委嘱状交付、事業概要及びスケジュールの説明、事業計画の承認

#### 内容

開会にあたり宮平会長より挨拶がなされ、委員への委嘱状交付が行われる。

正副委員長の選任として、推進委員会委員長に宮平商工会長、副委員長に宮平幸進、垣花薫氏が選任。

宮平委員長を議長に議事進行がなされる。

- ・議題（1）全国展開支援事業計画について

説明に入る前に、専門家の佐藤氏より小規模事業者地域力活用新事業全国展開支援事業の趣旨、内容等についての説明を行い、本事業についての理解を深めてもらう。続いて事務局より、今回の全国展開支援事業の計画概要について説明。座間味村の現状（強み・弱み）を踏まえた上で、地域の課題として冬季（閑散期）の誘客対応、特産品・飲食メニューの充実、積極的な情報発信を掲げ、その課題解決にむけた取り組みとして、今年度は調査研究を行う旨を伝える。推進体制を推進委員会と作業部会に分け行い、主に作業部会において市場調査や先進地視察を実施し報告書をまとめるスケジュールを確認する。

続いて質疑応答及び意見交換を行う。出席委員より「調査研究事業の後に続くような流れを意識した取り組みにしてほしい」「環境保全や美化も考慮したプログラムも必要でないか」「ごまみむん市場（特産品販売所）と観光協会へも観光資源活用の視点から足並みを揃えた方がよいのではないか」などの意見が出される。事務局より、提案された意見等については、今回の調査研究事業を進めながら検討していきたいとの回答。

その後、委員長より推進委員出席者へ計画内容の承認を求めたところ全会一致で可決承認される。

委員会等名	第2回推進委員会・作業部会（合同委員会）
開催日時	平成28年10月20日（木曜日） 15時00分～16時00分
開催場所	座間味村役場 3階 多目的室 （住所）沖縄県島尻郡座間味村字座間味109番地
出席者氏名（出席者数15名） （委員）宮平幸進、小池大二郎、又吉英夫、宮平智子、宮平賢、高江州英夫、加藤朋成、大坪弘和、比嘉のぞみ、三田勇樹、渡邊美喜、高江州勤  （専門家）大谷芳弘 （事務局）荻堂盛臣、垣花みのり  （オブザーバー）	

会議等テーマ	GAP調査報告、事業の進捗状況及び今後の流れについて
--------	----------------------------

### 内容

開会にあたり宮平幸進副委員長より挨拶がなされる。委員長は都合により欠席。宮平副委員長が議長となり議事進行を担う。

#### ・議題（1）GAP調査報告について

事務局より本事業にて実施したGAP調査の報告を行う。調査対象や調査項目を先の作業部会にて選定した上で本調査を実施した経緯を説明。調査結果のポイントとして観光資源における認知度・興味度は全体として認知度は低いが高関心度が高い事が判明、これは現状では認知度は低いが高関心・興味のある資源（お宝コンテンツ）が多数存在することを意味しており、認知度を上げることでスターコンテンツになる可能性が高いことを表している。また、イベント企画でも来島意欲の高い60代以上、女性20代及び30代に絞ってみると、「旬な海鮮料理（海の幸）堪能ツアー」「座間味の星空と流星を堪能するツアー」「沖縄の温泉 日本のブルーラグーン」の3つが高い割合を示していた。今後は、この調査結果を基にお宝コンテンツとなる観光資源を活用したアクションプラン策定と、年間プロモーション計画の策定を作業部会にて実施していくことを説明する。

#### ・議題（2）全国展開支援事業の進捗報告及び今後の流れについて

事務局よりこれまでの事業進捗と今後の流れを説明。事業スケジュールを基に、今後の予定として人材育成セミナー（共同プレスリリースセミナー）、作業部会による共同プレスリリースシート及び夏場以外のアクションプランの策定までを実施する事で確認。その他、先進地視察の実施（2カ所程度）、について事務局より視察先の提案がなされるが、事務局により選定し日程も調整した上で、各委員に参加呼びかけを行うこととする。その他、試作品開発（5事業所程度）についても参画事業者に対して依頼を行い、開発品は次回の合同委員会にて披露できるように準備する。

委員会等名	第3回推進委員会・作業部会部会（合同委員会）
開催日時	平成29年2月22日（水曜日） 16時00分～17時30分
開催場所	座間味コミュニティーセンター （住所）沖縄県島尻郡座間味村字座間味1-1番地
出席者氏名（出席者数17名） （委員）宮平安弘、宮平幸進、宮平真由美、小池大二郎、又吉英夫、大村真俊、中村毅、大城晃、宮平智子、宮平賢、加藤朋成、大坪弘和、比嘉のぞみ、三田勇樹、渡邊美喜、糸嶺直也、高江州勤  （専門家）佐藤直也  （事務局）荻堂盛臣、垣花みのり  （オブザーバー）和山通年、大江ゆい	

会議等テーマ	全国展開支援事業の事業報告、試作品について
--------	-----------------------

#### 内容

<p>開会にあたり宮平委員長より挨拶、引き続き委員長が議長となり議事進行を担う。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・議題（1）全国展開支援事業の事業報告について 事務局より今年度実施した本事業の報告が行われる。事業実施内容として事業概要から委員構成、委員会及びゼミナーの開催実績を説明。続いて調査研究報告として調査研究の目的と活躍が期待される地域資源、熊本県天草市と広島県尾道市にて行われた先進事例視察研修の報告、今回の調査研究の要であるGAP調査及びアクションプラン検討について説明がなされた。更にプレスリリース及びアクションプラン策定への専門家支援（マジックマイスター大谷芳弘氏）報告がなされる。特に今回の成果の一つとなる作業部会で作成した「共同プレスリリースシート」「アクションプラン（春・秋・冬）」については次年度以降への実施課題として強調される。併せて、今回の事業成果と今後の展開に関するスキーム図により今後の取り組みについて各支援団体等が連携を図り閑散期への集客を図る観光プログラムやメニュー開発を行い共同プレスリリースを仕掛けていくことを提案。説明終了後、本委員会の外部専門家として参加している地域総研佐藤氏、県連SV高江洲氏からコメントをもらう。</li> <li>・議題（2）試作品について 本事業の実施にあたり新たなメニュー及び土産品の小規模な試作を行い、試作品の試食及び展示説明を行う。飲食メニューは2社4点、土産品は1社3点を披露し委員へ評価コメントをもらう。それぞれの試作品への委員への評価は概ね高く、新商品・新メニューとしての今後の展開への期待の高さが伺えた（別紙参照）</li> <li>・議題（3）意見交換 意見交換として委員より今回の調査結果の共有及び各団体等との連携の取り方について質問が上がり、事務局より四半期毎など定期的に団体担当者が連絡会議を持ち情報共有に努める準備がある旨を回答。今回の事業内容及び成果の周知については商工会総会や各団体等事務局を通じて発信してもらう必要があるとの意見がでる。その他、報告書に関しては多くに配布し周知を図ることができよう商工会ホームページへの掲載やデータでの配付を行った方が良いとの意見もでる。副委員長からは今回の事業から得られた調査結果やこれまでの取り組みを基に、先を見てしっかりとプレスリリースを手掛けて閑散期の集客アップにつなげたいとの抱負も得られた。</li> </ul>
---



## (2) 作業部会

委員会等名	第1回作業部会
開催日時	平成28年6月22日(水曜日) 16時00分～18時00分
開催場所	座間味村離島振興総合センター 2階 図書室 (住所) 沖縄県島尻郡座間味村字座間味166-1番地
出席者氏名(出席者数15名) (委員) 宮平安弘、宮平幸進、小池大二郎、垣花薫、宮平一明、宮平賢、高江州英夫、大坪弘和、渡邊美喜、木船征良、前田正樹、加藤朋成、高江州勤  (専門家) (事務局) 荻堂盛臣、垣花みのり  (オブザーバー)	
会議等テーマ	座間味村観光資源の棚卸しと観光資源を活かした誘客方法のアイデアだし

### 内容

本事業にて実施する「GAP調査」の調査項目の設定に向けたワークショップを行う。調査委託先となる(株)リクルートライフスタイル沖縄 エリア活性化支援グループ エリアプロデューサーの鈴木愛子氏が進行役となり2班に分かれて作業を進める。作業に入る前に、GAP調査の内容と目的、事例を紹介。WEBアンケートを通し、座間味村の観光資源について認知関心を調べていくが、そのアンケート設問(観光資源とプログラム)を絞り込むのが今回の作業目的であることを告げ、参加者の意識の統一を図る。

2班に分かれ作業開始、進行役・タイムキーパー、書記に役割分担を行い以下のテーマについて取り組む。

「座間味村の観光資源を棚卸し」  
まず個人ワークとして付箋紙に記入してもらいチーム内で発表。資源を模造紙に分類する。

「観光資源を活かした座間味村への誘客方法を考えてみる」  
座間味村の閑散期誘客に繋がりそうな体験コンテンツ・イベントを個人ワークとして付箋紙に記入しチーム内発表、分類分けを行う。

およそ2時間の作業であったが、同じテーマでありながら異なる視点からの資源やコンテンツが多様に出ていることが興味深かった。

なお、本日欠席となった委員には後日集まってもらい同じような作業を行う。

委員会等名	第2回作業部会
開催日時	平成28年7月21日(木曜日) 18時00分～20時00分
開催場所	座間味村離島振興総合センター 2階 図書室 (住所) 沖縄県島尻郡座間味村字座間味166-1番地
出席者氏名(出席者数15名) (委員) 宮平安弘、宮平幸進、木船征良、小池大二郎、高江州英夫、大坪弘和、渡邊美喜、宮里祐司、加藤朋成、比嘉のぞみ、三田勇樹、高江州勤  (専門家) 佐藤直也 (事務局) 荻堂盛臣、垣花みのり  (オブザーバー)	

会議等テーマ	GAP調査設問項目の検討について
--------	------------------

### 内容

<p>前回の作業部会(ワークショップ)にて抽出された「地域資源」「観光メニュー」からGAP調査設問への回答項目の選定(絞り込み)を行うことを目的に開催。</p> <p>作業に入る前に、地域総研の佐藤直也氏よりGAP調査の目的について説明。今回の調査項目となる資源とコンテンツの考え方、調査の目的及び方向性を示唆し委員相互の共通認識を高める。</p> <p>続いて、事務局からリクルートより提示されたGAP調査アンケート構成案及びアウトプットイメージ、調査対象・方法、及び調査票素案について説明。調査項目については了承を得るが、調査対象については座間味村に行っていない方や知らない方の回答が多くなると調査結果の精度や信頼性が低くなる恐れがあることから、リピーター(行ったことがある方)の割合を増やしてほしいとの提案がなされる。(リクルート側と要調整)</p> <p>次に、前回のワークショップにて抽出された「観光資源」「観光メニュー」をそれぞれ集約されたシートから、回答項目を18個選定する作業を2班に分かれて行う。選定方法としては、調査項目として重要度の高い順番で書き出してもらう。</p> <p>作業終了後に各班から発表を行う。観光資源、観光メニューそれぞれの選定項目はほぼ重なる部分があるものの、重要度からみるとバラつきが見られた。選定された結果を事務局にて集約するとともに、阿嘉・慶留間地区の意見も取り入れて最終案にまとめることで確認する。</p> <p>最後に、今後の流れについて事務局より説明。次回はGAP調査の結果が出る10月中旬頃になる旨が伝えられ、作業部会を終了する。</p>
--

委員会等名	第3回作業部会
開催日時	平成28年10月21日(金曜日) 18時00分～21時00分
開催場所	座間味村役場 3階 多目的室 (住所) 沖縄県島尻郡座間味村字座間味 109番地
出席者氏名(出席者数16名)	
(委員) 宮平安弘、宮平幸進、木船征良、小池大二郎、高江州英夫、宮平賢、宮平一明、大坪弘和、加藤朋成、比嘉のぞみ、渡邊美喜、高江州勤	
(専門家) 大谷芳弘、佐藤直也	
(事務局) 荻堂盛臣、垣花みのり	
(オブザーバー)	

会議等テーマ	GAP分析を活用したアクションプランの作成について
--------	---------------------------

### 内容

<p>今回はGAP調査の結果内容を活用し、今後の閑散期集客にむけたアクションプラン作成を検討する。(株)マジックマイスター・コーポレーションの大谷芳弘氏を講師に、昨日の人材育成セミナーにて学んだ共同プレスリリース手法をベースに会議及びワークショップを進めて行く。</p> <p>はじめに大谷氏より京都市京北町によるGAP分析を活用したアクションプラン作成事例の説明を受ける。同町では共同プレスリリースシートを作成し季節ごとの観光資源を棚卸しした上で、スターコンテンツ・お宝コンテンツを選定し、共通のテーマとコンセプトを合わせてアクションプランシートを作成しプレスリリースを実施。メディアを通じたPRに繋がっているとのこと。</p> <p>事例をイメージに、3班に分かれてワークショップを行う。それぞれ「春」「秋」「冬」の季節に分かれて共同プレスリリースシートとアクションプランを作成。班ごとに季節ごとの観光地、グルメ、食材、名産品、歴史、イベントに観光資源の棚卸しを行い、その中からお宝コンテンツを選定し、コンセプト及びターゲットを設定。PRの切り口を扱いやすいランキング形式としてタイトル及びキャッチコピー作成までの作業を行う。出来上がった内容を班ごとに共同プレスリリースシート及びアクションプランを説明する。(※各班により作成されたシートはデータ化して添付)</p> <p>作業終了後、大谷氏より今後の広報活動として座間味村が行うこととして①アクションプランの検討(体験イベントやグルメ開発)、②ケラマブルー関係の商品化、③共同プレスリリースの実施(3島のキービジュアルの作成)が提案された。併せて観光地PRの秘訣として発地型広報と着地型広報の両方を連携して発信することが必要であることを説明。最後に大谷氏が中小企業大学の授業にて座間味村のGAP調査結果を基にアクションプラン作成実習を行った6案を紹介。限られた情報の中での作成だとは思いますが、非常に参考になるプランが多くあった。</p> <p>結果を報告。今後の座間味村の情報発信に共同プレスリリースを活用して魅力を伝えてもらいたいと述べて、会議を締めくくる。</p>
---

委員会等名	第4回作業部会
開催日時	平成28年11月18日（金曜日） 18時00分～20時00分
開催場所	座間味村コミュニティーセンター （住所）沖縄県島尻郡座間味村字座間味1-1
出席者氏名（出席者数14名） （委員）宮平安弘、宮平幸進、木舩征良、宮平賢、宮里祐司、宮平一明 大坪弘和、加藤朋成、比嘉のぞみ、渡邊美喜、糸嶺直也  （専門家）佐藤直也 （事務局）荻堂盛臣、垣花みのり  （オブザーバー）	

会議等テーマ	GAP分析を活用したアクションプランの作成について
--------	---------------------------

### 内容

<p>前回の作業部会にて取り組んだ、今後の閑散期の集客に向けた共同プレスリリースシート及びアクションプラン作成の続き及びブラッシュアップ作業をワークショップについて行う。</p> <p>事務局より前回の作業にて作成された共同プレスリリースシート及びアクションプランをとりまとめたシートを配布し内容の確認を行う。続いて、前回同様に「春」「秋」「冬」の季節ごとに3班に分かれてワークショップを行う。再度、共同プレスリリースシートに記載されている季節ごとの観光地、グルメ、食材、名産品、歴史、イベントに棚卸しされ、その中からお宝コンテンツとして選定された資源を確認し、基にして作成されたアクションプランの見直し作業を行う。作業終了後に班ごとに発表、春班は前回同様でほぼ修正なしで完成、秋班は座間味・阿嘉・慶留間の三島を切り口にお宝コンテンツを見直したアクションプランに変更。冬班はコンセプト・テーマは前回同様であるが、ランキング切り口を観光プログラムに絞り込んだ内容に修正した。</p> <p>作業終了後、視察研修について視察先と時期等について事務局より説明。12月19日（月）～21日（水）の2泊3日で熊本県天草市を視察訪問する旨を伝える。天草市選定の理由に関しては、前回の作業部会にてプレスリリースの支援を受けた大谷先生の指導を受けてプレスリリースに取り組み実績が出ていることなどを掲げ、5名程度の参加者を募る。もう1カ所は年明け1月第2週に広島県尾道を候補に掲げ、具体的な日程と行程が決まり次第に委員への案内通知を行う旨を伝え会議を終了する。</p>
---

(3) セミナー

講演会名	プロジェクトコア人材育成セミナー
開催日時	平成28年10月20日(木曜日) 16時00分～19時00分
開催場所	座間味村役場 3階 多目的室 (住所) 沖縄県島尻郡座間味村字座間味 109番地
講師氏名	(株)マジックマイスター・コーポレーション 代表取締役 大谷芳弘氏
参加者氏名	<委員>宮平幸進、小池大二郎、又吉英夫、宮平智子、高江州英夫、 加藤朋成、比嘉のぞみ、高江州勤 <オブザーバー>宮平洋一
演題	地域を活性化させる共同プレスリリースセミナー(座間味村編) マスコミからドンドン取材をされる方法! ～GAP調査を活用して集客の為に新アクションプランを作成～
内容	<p>本セミナーでは地域資源を活用した取り組みを通し、閑散期の集客に向けた広報のやり方について学ぶことを目的に実施。講師である大谷氏は広報コンサルタントとして兵庫県を中心に、地域や企業に対し主にプレスリリースを中心とした効果的な広報戦略についてよろず支援による専門家派遣や、中小企業大学校での講師として幅広く支援を行い高い実績を輩出している。</p> <p>今回のセミナーでは広報の基礎知識としてプレスリリースのノウハウを学びお金をかけずに情報発信する方法を学ぶとともに、実際にテレビや新聞で取り上げてもらうためのネタや切り口の考え方とプレスリリースの作成事例を紹介しながら具体的に学んでいく。</p> <p>プレスリリース作成で大切なポイントは印象に残るキャッチコピーと商品やサービスの特徴がわかる言葉を使うこと。特にTV関係者が思わず番組で取り上げたくなる8つの不思議ネタとして提示し、これらを使う事で採用率が大幅に高まる。また、一目で分かるコンセプトとしてテーマ(=TVの視聴率に関わる)とタイトル(=こちらが宣伝するもの)を上手く掛け合わせて表現することが重要である。なお、ステップとしては顧客ターゲットの明確化、PRの切り口決定、メディアの選択、情報発信の時期、プレスリリースの作成となる。プレスリリースシートも講師よりひな型が提示され、こちらにタイトルや内容、画像等をはめ込むことで簡易に作成できるノウハウを紹介する。</p> <p>続いて共同プレスリリースの流れを説明。こちらでは地区内等の複数グループで共同リリースシートを作成し広報展開を行う手法であるが、ポイントはGAP分析を行いスターコンテンツ、お宝コンテンツを洗い出し、事業所毎に経済効果を生む商品やサービスを検討し共通のコンセプトとテーマをもってアクションプランを作成していく点である。講師より兵庫県新温泉町や福崎町商工会、加東市の事例を紹介、具体的な取り組みについて学ぶ。</p> <p>特に新温泉町の取り組みは、地域資源の中のスターやお宝コンテンツを調査によって知ること、宿や飲食業が四季ごとの共通のテーマ・コンセ</p>

プトでメニューやサービスを企画し年間広報計画としてプレスリリースを行い集客に繋げている見本となる事例であった。

広告ではなく広報としてのプレスリリースを上手く活用することで、テレビや新聞、雑誌等から取材を受け、お金をかけずに広く周知し集客に繋げることができるこの手法は、現在の座間味村にとって必要かつ有効な広報手段であると感じた。また、全国展開支援事業にて実施したGAP調査にて座間味村には興味度が高く認知度が低い「お宝コンテンツ」が多数あることが判明したことから、今後の経済効果を生む新商品や新サービスを村内事業者が各自で考えたプランを共同プレスリリースとして実施できるような、年間広報計画が作成され、年間通して観光客が訪れる仕組み作りに繋がることを期待したい。



※セミナー配布資料は参考資料に掲載